

ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム

—就学前教育から小学校1年生への系統性に着目して—

三村真弓

(本学大学院教育学研究科)

吉富功修

(本学大学院教育学研究科)

北野幸子

(福岡教育大学)

Not until recently, the lack of smooth transition to elementary school has not been criticized in Japan. The Elementary 1st grade education starts as so called “Zero Start” and elementary school teachers has to build their curriculum without any information about children’s experience during preschool years. Though some school districts started transition activities, such as visiting each institution and sharing experiences, there have not developed transition programs in certain subject.

The purpose of this study is to examine elementary school transition program in music education, focusing on the case of Hungary, which is well known for its systematically-designed music curriculum effected by Kodai.

As the results, ①it was made clear that the aim of music education and expected abilities in both preschool and elementary school education are the same; ②elementary school music education is strongly based on the music experienced during preschool years; ③preschool music education is based by play activities and children’s are trained through enjoyable music activities; ④learning components are stated clearly in text books and it these are designed systematically; ⑤what is strongly focus in music education in preschool years and early elementary school years are to learn essential factors in music education, such as sol-fa, sense of rhythm, and listening abilities; and ⑥education to enhance abilities to read and write music score starts from the first grade.

From this study, it was made clear that music education in Hungary has a lot of elements for us to learn to create elementary school transition curriculum in music education, in Japan.

I はじめに

昨今、保幼小連携の試みがさまざまなところで見られるようになった。国立大学の附属幼稚園と附属小学校間での連携の試みや、地域内での保育所・幼稚園と小学校の交流などが挙げられる。これらのほとんどは、プロジェクト型の連携、幼児と児童の人的交流、共同イベントの実施などであり、就学前教育における領域と学校教育における教科とを繋ぐ系統的カリキュラムの開発までには至っていない。しかし、今後の保幼小連携問題は領域－教科間の連携へと発展していくべきであると考えられる。

音楽教育の分野では、音楽的能力の発達に関して、幼児期における音楽教育・音楽活動の重要性がしばしば指摘されている。しかしわが国の現状においては、保育所・幼稚園での音楽活動の質や量の格差が顕著であり、就学前教育における音楽活動と小学校における音楽教育とは非連続である。幼児・児童の発達を考慮に入れながら、系統的な音楽カリキュラムを開発することは今後の重要な課題となるであろう。そこで本論文では、就学前教育から充実した音楽カリキュラムを有しているハンガリーの音楽教育に着目し、特に就学前教育から小学校1年生にかけての系統性を探る。

ハンガリーでは、コダーイ・システムに則った音楽教育が行われてきた。コダーイ・ゾルターンは、早期からの音楽教育の重要性を説き、自国のわらべうたや民謡を使った音楽教育を推進した。コダーイの音

楽教育の理念を実際にカリキュラム化したのは彼の教え子や同僚たちである。1990年以降は解放路線が進み、それにとまって、以前のように徹底しなくなってきていると言われているが、コダーイ・システムは、現在のハンガリーにおいても音楽教育の中心である。ハンガリーの小学校は、一般小学校と音楽小学校とに分けられる。音楽小学校では一般小学校よりも音楽の授業時間が多い。午前に行われる音楽のクラス授業の他に、午後は器楽専門の教師による楽器のレッスンが行われている。

コダーイやハンガリーの音楽教育に関する先行研究は多々あるが、幼稚園および小学校の音楽教育を対象としたものとして、志澤彰（2001）、清川美也子（2002、2004、2005、2006）、笹嶋眞夫（2006）などがある。これらの研究では、音楽カリキュラムや音楽教科書などは扱われていない。しかし、実際の音楽教育の内容と指導法を探るためには、カリキュラムや教科書や指導書などに着目することが重要であると考える。

本論文では、ハンガリーの就学前教育における音楽カリキュラムの内容と指導法を、公的機関によるガイドラインと教師用指導書から明らかにし、また一般小学校1年生の音楽カリキュラムの内容と指導法を、文部省によるガイドラインと一般小学校の1年生の音楽教科書および教師用授業案を分析することによって明らかにする¹⁾。これらによって、幼稚園から小学校への連携の系統性を解明し、わが国の保幼小連携音楽カリキュラム開発への示唆を得たい。

II 就学前音楽教育

1 就学前音楽教育のガイドライン²⁾

以下は、Tereskeという町の公式ホームページ“Óvoda és Általános Iskola Integrációs Bázisintézmény Tereske”（「保育園と一般小学校の統合Bázisintézmény Tereske」最終更新2006年12月7日）に記載されている“Ének-zene”（「歌-音楽」）という就学前音楽教育の公式ガイドラインの内容である。

表1 音楽の基礎的な技能とその内容

技能	内 容
歌唱能力	清潔な歌唱。 模倣を基本とする。 多くの練習を必要とする。
リズム的能力	正確な基本拍（4分音符）。 唱え言葉と歌のリズムの知覚。 2/4拍子のリズムモチーフの工夫。 基本拍とリズムの関連。 歌の中の一対の拍（8分音符）とアクセントの知覚 テンポ（速い-遅い）の知覚。 テンポ：3-4歳児；66-80、4-5歳児；80-92、5-6歳児；92-102。 民族的な動作、子どもの踊り。
聴覚力 音楽鑑賞能力	高い-低い知覚。 小さい-大きい区別。 小さい-大きいと速い-遅いの組み合わせの区別。 音色の識別：雑音、楽音、人間の話し声などの区別 内的聴覚：旋律認知、旋律隠し、旋律モチーフの歌唱、問答遊び。 音楽を注意深く鑑賞するように教育する。 音楽への興味を高める。 歌の異なる特徴、音楽の雰囲気、楽器と遊戯の適切な調和を知らせる。

(Óvoda és Általános Iskola Integrációs Bázisintézmény Tereske, pp.2-21から作成)

音楽教育の目標として、①歌う経験や鑑賞する経験を与えること、②音楽に関心をもちさせること、③音楽を愛好すること、④音楽の趣味を形成すること、⑤美的な感受性を形成すること、⑥音楽に正確に反応する能力を形成すること、⑦音楽の母国語の形成を育成すること³⁾、が挙げられている。音楽の基礎的な技能としては、歌唱能力、リズム的能力、聴覚力、音楽鑑賞能力が挙げられ、表1のような内容が列挙されている。

基本拍の育成は、歌に伴う遊戯で絶え間ない動き（頭、足、肘、手、歩行、手拍子）を伴うことによって行われ、唱え言葉と歌のリズムの習得は、さまざまなリズムの強調（手拍子、連打、トントンたたく、動物の擬音、楽器の模倣、歌唱または内的歌唱の間のリズム打ち）によって行われる。またリズムは、保母-子ども、1人の子ども-グループ、1人の子ども-別の子ども間の反射的な遊戯によっても育成される。基本拍とリズムの関連は、グループで一緒に歌ったり個別に歌ったりする中で、観察、比較、識別される⁴⁾。旋律隠しは、①歌の途中で2つのフレーズ、後には4つのフレーズを隠す（心の中で歌う）、③歌のフレーズを、合図によって大きく歌ったり、心の中で歌ったりを交互に行う、などの方法で

行われる⁹⁾。これらには、旋律の記憶が必要とされる。

2 教師用指導書に見られるカリキュラム

ÉNEK AZ ÓVODÁBAN (『保育園の歌』)は、コダーイの弟子であり、コダーイ・システムの幼児教育の分野の中心的指導者であるフォライ・カタリンによって著された本である。初版は1974年に出版され、畑玲子によって『わらべうた 音楽の理論と実践—就学前の音楽教育—』として日本語訳されている。ÉNEK AZ ÓVODÁBANは版を重ね、今でも書店に並んでいる。幼稚園や保育園の教師のほとんどがこの本を所持し、教員養成大学でもテキストとして使われている。今回は2004年に出版された17版のものを用いた。初版に比べると補筆が行われている。特にカリキュラム表には1974年版と若干の違いが見られる。

同書には、コダーイの音楽教育理念、就学前教育における音楽教育などに加え、就学前教育で用いられるべきMONDÓKÁK (唱え言葉)が60曲、JÁTÉKOK (遊び歌)が156曲、DALOK (季節、祝祭日、動物、踊りの歌)が114曲収められている。唱え言葉と遊び歌には、遊び方、動作の仕方、行進の隊形などが絵とともに詳細に付記されている。歌はほとんどが遊戯付きで歌われる。幼い子どもには、膝の上で歌の拍節に合わせて揺さぶったり、手遊びをしたりする遊戯が多く、年齢が上がるに伴って、身体全体を使った動作や、手を繋いで輪になって歩いたり、隊形を組んで複雑に行進したり、ゲームをしたりすることが多くなる。1つの歌でいろいろな遊びや動作や行進をするので、遊びながら子どもたちは飽きずに繰り返し歌を歌うことになる。こうして、たくさんの歌を自然に楽しみながら覚えていき、旋律感が養われる。また、歌いながら基本拍で歩くことも重視されている。歌に合わせて均一に基本拍で歩くことができるようになると、歌のリズムに合わせた手拍子加わる。これらによってリズムの能力を育成していく。覚えた歌は、保母のハミングやリズム打ちによって提示され、子どもたちはそれが何の曲であるかを尋ねられる。さらに、保母の合図で、歌の途中から声に出さずに心の中で歌い、再び合図があれば、一斉に歌い出す活動(旋律隠し)もよく行われる。これらは、音楽の記憶力と内的聴覚の発達を旨としたものであり、コダーイ・システムで非常に重要視されている能力である。

表2は就学前教育3年間のカリキュラムである。音楽的能力には を、系統的な発達を示す活動には を付した。表2からわかるように、習得すべき音楽的能力や内容や活動が明示されている。項目には音楽的能力に関するものが多く、それらの活動は、3年間で易→難へと系統的に配置されている。

表2 就学前教育の教育用指導書のカリキュラム表

3年間の年齢別の音楽の特色				
		年少	年中	年長
用意する歌	音の数	3-5音	3-6音	3-6音
	音域	d1-h1	c1-c2	c1-d2
	一般的なテンポ	66-80	80-92	92-108
		保母の援助、斉唱、グループ唱、だいたい同じ高さで。	保母が独唱を励ます、友達の助けを得る、清潔に、一緒に、歌詞を良い発音で。	グループ唱と独唱、一人立ちの開始、清潔に、正しい音高とリズムの再生。旋律モチーフとリズムモチーフの応答唱。
歌唱教材	可能であれば…16曲、できる…10曲、確実にできる…6曲	可能であれば…20曲、できる…18曲、確実にできる…10曲	可能であれば…25曲、できる…20曲、確実にできる…10曲	
聴く能力	高い—低いの関係	オクターブの隔たりを空間で示す。同じ曲を違う高さで再生する。	オクターブと5度の隔たりを空間で示す。同じ曲を違う高さで再生する、知っている旋律の動きを空間で示す。	知っている旋律を空間で示す(ゆっくりしたテンポで)、旋律のモチーフを示す。
	小さい—大きい の識別	会話、歌、雑音から弁別する。	低い声—高い声で(変化をつけて)歌う。会話する。拍手する中から弁別し、識別する。	低い声—高い声とすばやく—ゆっくりに練習する中で理解し、識別する。
	旋律弁別、音楽の記憶力		知っている歌を歌詞なしで、楽器により、弁別する。	曲の最初のモチーフの旋律を弁別する。

隠された旋律、 内的聴覚の能力		モティーフを小さく、 大きく変えて歌う（内 的聴覚）。	短い長い旋律を隠し て、茨にのって歌の 中から一致して歌う。
モティーフの繰 り返し	簡単な旋律の繰り 返し。		グループで一緒にとぎ れることなく、モテ ーフの繰り返しから歌 詞を考え出す。
音色の識別能力	2-3の大きい雑音 人の声、打楽器 音色の識別。	繊細な雑音と声の弁 別、自然の音、雑音の 識別。	あらゆる雑音と楽音と 声の弁別、繊細な雑音 の方向や近づくと遠ざ かる距離の弁別。
音楽の傾聴	保母の歌を関心をも って傾聴する。	何分かかっている歌 や楽器の演奏を傾聴す る、新たな歌の傾聴も 要求する。	長い歌あるいは楽器の 演奏で歌を紹介し、楽 器で関心をもって注 意深く傾聴する。
リズム		歌、唄え言葉でリズム を強調する。	歌のリズムの識別、歌 のリズムの強調、リス ムによる旋律の識別。
テンポの識別： 速いー遅いテン ポ	保母の歌に合わせ て、あるいはテン ポの変化する楽器 遊びに合わせて 簡単な動作を模倣 する。	速いー遅い会話、歌 動き：テンポの能力。	音楽の速いー遅いの識 別、1人で指揮をする 練習、保母なしでテン ポをとる。
動作、隊形	個別に遊びの動き、 保母、小さなグル ープと一緒に。	全員で一緒に、同様の 動作、美的遊戯の動き。	美的な一斉動作、変化 の多い隊形、遊戯の踊 りの動き。
打楽器	簡単なリズム楽器 を用いる。	太鼓とシンバル、トラ イアングルを使う。 “自作の楽器”を使う。	太鼓、トライアングル、 シンバルを、1人で、 変化をつけて、曲に合 わせて使う。
リズム応答	簡単な会話と歌で リズム、モティーフ を繰り返して手拍 子する。	モティーフ(4分音符) のアクセントを具 体な動きで強調する。 リズムと旋律の応答奏。	リズムモティーフの アクセントを強調する、 自由な動きで歩行する、 リズムと旋律の応答奏。
メロディー応 答		モティーフを使って旋律 線を展開する(名前あ いさふ)	音楽の応答の工夫(モテ ーフを使って)、唄え言葉や旋 律、おとぎ話に自分の歌 詞をつけて歌う。

(Forrai Katalin, ÉNEK AZ ÓVODÁBAN, 2004, Musica Budapest, pp.28-30を訳出した。)

3 就学前音楽教育の特徴

表3 就学前音楽教育の学習内容の特徴

項目	内容
聴覚力	聴覚の育成：高ー低、大ー小、音色の識別 聴く力の育成：保母の話、歌、演奏の傾聴
リズム的 能力	基本拍の安定、リズムのアクセントの感受、 速いー遅いテンポの知覚
記憶力	歌の記憶、リズムの記憶、旋律の記憶

具体的に示されている。

指導法の特徴として、以下の3点が挙げられる。第1は、遊びの要素を採り入れていることである。1つの歌でいろいろな遊びかたやゲームをすることによって、飽きずに歌を繰り返すことができる。第2は、発達に応じた指導であることである。易→難、身の回りのもの→楽音、身体表現→声による表現と段階に応じた指導を行っている。また歌唱教材として、子どもたちに親しみのあるわらべうた、民謡などを用いている。これらの歌は、狭い音域、少ない音数、半音がないなど歌いやすい特徴を有している。第3は、繰り返しの重視である。歌を繰り返し歌うことによって、旋律の記憶やリズムの記憶が可能となり、これ

らによって内的聴覚の育成がなされる。また、歌に合わせて規則正しく歩くことを随時行うことによって、基本拍が体得される。さらに、常に歌に合わせて拍手でリズム打ちすることによって、リズム的能力が養成され、リズムが記憶されるのである。

Ⅲ 小学校1年生の音楽教育

1 教育省のガイドライン

表4と表5は、ハンガリーの教育省のホームページに記載されている“A NEMZETI TANKÖNYVKIADÓ MŰHELYÉNEK KERETTANTERVE AZ ALAPFOKÚ NEVELÉS-OKTATÁS SZÁMÁRA”（「国家が編集した教科書 教室の歌のカリキュラムの枠組み 小学校の養育-教育のための」2003年版）の内容を表にしたものである。

表4 一般小学校1年生の音楽教育ガイドライン

一般小学校1年生の音楽教育カリキュラム		
領域	音楽活動	教材
歌唱	遊び歌を歌う。	唱え言葉 わらべうた
	歌詞付きの歌を暗唱する。	
	先生の指導でハンドサインを見て歌う。	狭い音域のハンガリー民謡
	歌と唱え言葉のリズムシラブル唱をする。	記念日の歌（母の日、サンタクロースの日、クリスマスの日）
	正しいテンポを決めて保持する。	
音楽鑑賞	正しい姿勢と呼吸法。	芸術的に価値がある創作された子どもの歌 （子どもと環境、自然と社会）
	提示された音の高さを弁別して再生する。	
	大きい音-小さい音を識別する。	物体、身の回りの騒音、雑音
	テンポの違い（速い-遅い）を比較する。	楽器伴奏を付けた歌唱教材
	提示された1-2分の音楽（よく知っている子どもの歌を編曲したもの）を集中して聴く。	描写音楽
創作	音色の識別能力を育成する。	
	a) 人の声(子ども-女性-男性)の識別	
	b) 楽器の音(リズム楽器、メタロフォン、縦笛、ピアノ)の識別	
	音楽の情景を聴きながら観察する。	
	基本リズムを使いながら、歌とリズムの創作遊びをする。	旋律のモデル：習った唱え言葉、子どもの詩、遊び歌、習ったメロディー
	応答唱（名前を歌う）をする。	

(A NEMZETI TANKÖNYVKIADÓ MŰHELYÉNEK KERETTANTERVE AZ ALAPFOKÚ NEVELÉS-OKTATÁS SZÁMÁRA, 2003, pp.42-44を訳出し、表にまとめた。)

表5 一般小学校1年生で習得すべき学習内容

項目	学習内容
歌	学習内容(表4)を参照。
リズム	基本拍、モチーフの強拍-小節の強拍、2拍子、基本リズム、4分音符、休符、くくった8分音符、リズムの模倣、小節線、終止線、繰り返し記号。
旋律	ペンタトニックの旋律の構成音。 階名(ソ-ミ-レ-ソ-ミ)。
楽譜	5線譜の理解、習ったペンタトニックメロディー 一、階名(ハンドサイン、階名、音符)を5線譜に書く。
調	ペンタトニック音型(ドと下のレを基礎にして)。
演奏	音量(大-小)、テンポ(速い-遅い)。
音色	リズム楽器、子ども-女性-男性の声、メタロフォン、ピアノ、縦笛。
進級条件	1年生には進級条件はない。1年生は育成の時期である。

(A NEMZETI TANKÖNYVKIADÓ MŰHELYÉNEK KERETTANTERVE AZ ALAPFOKÚ NEVELÉS-OKTATÁS SZÁMÁRA, 2003, pp.44-45を訳出し、表にまとめた。)

表4は、一般小学校の1年生の音楽教育のガイドラインである。就学前教育と同様に重要視されている音楽的能力には●●を、就学前教育よりも発展した内容には~~~~を付した。就学前教育よりも発展した内

容であるハンドサインやリズムシラブルは、楽譜学習への準備として行われるものであり、小学校からは読譜・記譜を重視することを示している。また音色の識別では、就学前教育で雑音と楽音との識別程度であったものが、1年生では人の声の種類の識別や、楽器の音色の識別に発展している。一方、就学前教育に引き続き記載されている活動には、テンポの保持、音高の弁別・再生、音の大・小の識別、速い・遅いの識別、歌とリズムの創作遊び、応答唱などがある。これらは、リズム感の育成、旋律感の育成、識別能力の育成などが、就学前教育から引き続き重視されていることを示している。表5は、一般小学校1年生で習得すべき学習内容をまとめたものである。就学前教育よりも発展した内容には〰を付した。〰以外は、就学前教育と同じ内容の繰り返しである。新しい学習内容である、小節の強拍、2拍子、基本リズム、小節線、終止線、繰り返し記号、階名、5線譜の理解や、階名や記号の記譜は、すべて楽譜学習である。また、ラを基礎としたペンタトニック音型や人の声や楽器の音色の識別は、発展的な内容である。表4と表5から、小学校1年生の音楽カリキュラムには、就学前教育の内容の継続性と発展性が見られると言える。

2 一般小学校1年生の音楽教科書と授業案の分析

表6 一般小学校1年生の音楽教科書の題材と教材

歌、唱え言葉	新曲4(遊び方・隊形付2) 既習の遊び歌4(就学前教材4) 唱え言葉5
均整のとれた鼓動	新曲4(遊び方・隊形付4) (就学前教材2) 鑑賞CD3
音楽のリズム : taとtiti	新曲7(遊び方・隊形付5) (就学前教材4) リズムの記譜練習課題7 リズム譜による曲名当て課題4 鑑賞CD4
音楽の節 : ソーミ	新曲5(遊び方・隊形付3) リズムの記譜練習課題5 リズム譜による曲名当て課題4 階名視唱・移調課題10 休符の導入教材2 鑑賞CD3
音楽の節 : ソーミ	新曲5(遊び方・隊形付3) リズムの記譜練習課題5 リズム譜による曲名当て課題4 階名視唱・移調課題10
音楽の沈黙: 休止符	新曲3(遊び方・隊形付2) (就学前教材1) リズムの記譜練習課題2 ラの導入教材1 鑑賞CD1
ラの音	新曲4(遊び方・隊形付2) (就学前教材1) リズムの記譜練習課題1 階名視唱・移調課題6 リズム打ち課題1 鑑賞CD3
2拍子	新曲4(遊び方・隊形付4) (就学前教材1) リズムの記譜練習課題2 階名視唱・移調課題3 リズム打ち課題2 鑑賞CD1
終止線	新曲1(遊び方・隊形付1) 視唱課題1 記号の練習課題1
繰り返し記号	新曲1(遊び方・隊形付1) 視唱・移調課題1 記号の練習課題1 曲当て課題4
祝祭日の歌	新曲15 (就学前教材4)
この本で習ったこと	

(Ének-zene az általános iskola 1. osztálya számára, 2001を訳し、まとめた。)

ハンガリーで最も使用されているNemzeti Tankönyvkiadó社出版の一般小学校用音楽科教科書ENEK-zene(『歌-音楽』)の1年生用の題材(単元)と教材をまとめたものが表6である。就学前教育で習った歌を用いた活動には〰を付し、次の学習内容への準備の教材には〰を付した。

題材は、祝祭日の歌をのぞいて、すべてが楽典的内容で構成されている。新曲は歌詞付きの5線譜で記載されているが、中には就学前教育用の歌も含まれている。また、歌詞のみで登場する歌はすべて就学前教育に習った歌である。ほとんどの歌は遊戯付き(さまざまな隊形で行進したり、リズムカルな動作をしたりする)で歌われ、遊戯の仕方も教科書に記載されている。

教科書では、音の高低やリズムを視覚的に捉えられるように絵で表したり、符尾だけのリズム譜を記載したり、5線譜上に音符を●で表したりしている。児童の心身の発達を考慮しながらも、1年生から読譜・記譜の能力の育成を重視していることがわかる。

内容は易→難であり、練習課題をほとんどすべてのページに載せ、繰り返しの学習をねらっている。また活動は、大部分が就学前教育の歌を用いて行われる。このことから、就学前教育の音楽活動が、小学校1年生の音楽学習の基盤となっていることがわかる。また、題材の終わりには次の題材の学習内容が暗示されていることもある。

3 一般小学校1年生音楽教科書授業案



表7 一般小学校1年生音楽教科書授業案

時間	歌	授業の題材	発達目標	音楽鑑賞
1.	Ha én cica volnék Én kis kertem kerteltem Rétes, kerekes Gyű paci, paripa 唱え言葉	幼稚園で習った歌の復習 正しい姿勢で美しく歌う 基本拍 共同遊戯	拍手しながら均一に歩く 律動のある動作 (揺する、ギャロップ)	Eagerness development
2.	Csön, csön, gyűrű Csíp, csíp, csóka Tente baba párnára Lopok, lopok, szőlőt 唱え言葉	幼稚園で習った歌の復習 正しい姿勢で美しく歌う 基本拍 共同遊戯	拍手しながら均一に歩く 律動のある動作 (揺する、ギャロップ)	
3.	Bújj, bújj, zöld ág Az előző órák dalai, mondókái 前の時間の歌 唱え言葉	幼稚園で習った歌の復習 正しい姿勢で美しく歌う 基本拍 共同遊戯	基本拍	Galgamácsai népi mondókák 1.
4.	Erdő mellett nem jó lakni Az előző órák dalai, mondókái 前の時間の歌 唱え言葉	<u>4分音符および8分音符の準備</u>	歌、唱え言葉 Dalok, 歌、唱え言葉、歌詞 <u>(リズム) 拍手</u>	Galgamácsai népi mondókák 2-3.
5.	Zsipp, zsupp, kenderzsupp Hinta, palinta	<u>4分音符および8分音符の準備</u> 鑑賞：唱え言葉 児童コーラス	<u>リズム打ちと歌を一緒に合わせる</u> (2グループ、または2人の子ども) リズム楽器 示された記号の箇所、旋律唱とリズム打ちを交替する 長いー短いを認識する	Kodály: Egyetem, begyetem
6.	Lánc, lánc, eszterlánc Zsipp, zsupp, kenderzsupp Hinta, palinta Rétes, kerekes Kár, kár, kányavár	4分音符と8分音符を知る tá tá ti-ti tá のモチーフ	tá tá ti-ti tá モチーフを歌う、 リズムを書く、手で打つ、リズム楽器でたたく 歌や唱え言葉からモチーフを採り上げる リズム記号を読む 小さい棒きれを並べる	
7.	Esik az eső Zsipp, zsupp, kenderzsupp Hinta, palinta	4分音符と8分音符の練習 tá ti-ti tá tá のモチーフ	前のリズムモチーフを歌う、 書く(15頁) 新しいモチーフを知る、歌う、 並べる、書く	Kodály: Hajnóvesztő
8.	Kék selyem kendő Esik az eső Rétes, kerekes	知っているリズムモチーフを練習	知っている歌から採り出したリズムモチーフをリズム楽器で叩く 読む、歌う、リズムカードを並べる、 書く 知っている歌の終わりまたは途中の基礎的なモチーフ	Kodály: Katalinka
9.	Hajlik a meggyfa Ha én cica volnék	知っているリズムモチーフを練習 ti-ti ti-ti tá tá のモチーフ 鑑賞：牧笛、声	前の授業の内容 知っている歌のリズムについて高いー低い音を、実物で、あるいは身の回りの環境の音で(動物、物、声)	"Amikor a pásztor elvesztette a kecskéit."
10.	Szólj síp, szólj! Búji, buji zöldág Erdő mellett nem jó lakni Ha én cica volnék Biri, biri, bárány	tá tá tá tá と ti-ti tá tá のモチーフの練習 <u>ソーマの準備をする。</u>	知っている歌のリズムモチーフ(22頁) <u>高いー低い音の知覚、模倣、動作</u> (笛を吹く、基礎的なモチーフをハミングする)	Csik megyei furulyadallamok
11.	Gólya viszi a fiát Aluszol-e jó juhász Egér, egér, kiséger	ti-ti ti-ti ti-ti tá のモチーフの練習 <u>ソーマの準備をする。</u>	リズムモチーフを知る、歌う、 書く <u>知っている歌で、高いー低い音</u>	

	Lementem a pincébe Tente baba párnára		を判別する(23頁)	
12.	Koszorú, koszorú Hinta, palinta Zsipp, zsupp, kenderzsupp	ti-ti tá ti-ti táのモチーフの練習 ソーミを意識させる 5線のしくみを知る	リズムモチーフを歌う、読む、書く ソーミをハンドサインで歌う 笛やメタロフォンなどを傾聴する ●を並べる	
13.	Ó, aki Szent Miklóst szereti Suttog a fenyves zöld erdő Hull a pelyhes fehér hó	祝祭日の授業: Mikulás 歌を学ぶ、鑑賞する、話をする		Mozart: Változatok egy francia gyermekdalra (Részletek)
14.	Luca, Luca	祝祭日の授業: 12月13日 Luca napja 歌を学ぶ、民話を知る		Lucázás
15.	Ég a gyertya, ég Karácsonynak éjszakáján	ソーミのモチーフを練習する クリスマスの準備	ソーミのモチーフをハンドサインで歌う 知っている歌で、線と間に●を並べる (29-31頁)	
16.	A kis Jézus aranyalma Kis karácsony, nagy karácsony	祝祭日の授業: クリスマス 歌を学ぶ、鑑賞する、話をする		Karácsonyi dalok
17.	Án, tán, ditijom Koszorú, koszorú Ég a gyertya Szólj síp, szólj!	ソーミのモチーフを練習する 4分休符の準備 鑑賞: 笛、音楽活動	基礎の練習(32-33頁) ソーミを使って即興で歌う 休符を入れた手拍子をしながらかを歌って歩く	Jacob van Eyck: Engels Nachtigaelkje
18.	Tivi-tovi tács Koszorú, koszorú Aluszol-e jó juhász Hajlik a meggyfa Án, tán, ditijom	リズムを知る、歌のモチーフの練習 4分休符の準備 鑑賞: 笛とピアノの演奏	34-35頁の課題 モチーフを読む、リズムカードと階名を用いる リズム打ちをしながらかを歌う	Bartók: Három Csík meggyei népdal
19.	Hess el sas Ég a gyertya Szólj síp, szólj!	これまでに習ったものを練習する 4分休符の準備	リズムカードと階名を使って練習する(37頁)	Bartók: Héjjá, héjjá, karahéjja
20.	Süss fel nap! Hess el sas	4分休符を知る ラの音の準備	知っている歌から休符を知る、記号を書く リズム打ちの間に手のひらを開いて、休符を感じ取る 動作によってソの近くの高い音を感じ取る	
21.	Körtéfa Süss fel nap! Hess el sas Csíp, csíp csóka Bújj, bújj zöld ág	4分休符をモチーフから知る ラの音の準備	リズムモチーフを即興する(休符の使用) 基礎的なリズムモチーフを書き取らせる 次の活動(ラ)に付随した旋律の動きを示すために、知っている歌の一部分を歌う	
22.	Kis kacsza fürdik Körtéfa Süss fel nap! Hess el sas	ラの音を知る	知っている歌から、ソーラーソの旋律モチーフをハンドサインを見て歌う 5線譜に●を並べる	Bartók: Cipósütés
23.	Iglice, szívem iglice Csíp, csíp csóka Csön, csön gyűrű Bújj, bújj zöld ág	ラの練習 ソーラーソとソーラーソーミの旋律モチーフ 鑑賞: ピアノ音楽	旋律のモチーフを知り、ハンドサインを見て歌ったり、並べたりする ソ、ラの音を使って即興する	Bartók: Süssünk, süssünk valamit Süss fel nap!
24.	Gyertek lányok ligetre Tivi-tovi tács Ég a gyertya	ラの練習 ソソーラーソのモチーフの練習	知っている歌のモチーフを5線譜に並べる(47頁)	Bartók: Elvesztettem zsebkendőmet Elvesztettem páromat

25.	Esik eső, karikára Esik az eső Kis kacsá fürdik Kék selyem kendő	ラの練習 ソーラーソーミのモ ティーフの練習	前の授業ラの練習と同じ	
26.	Kossuth-dalok	祝祭日の授業：3月15日 歌を学ぶ、鑑賞、話をす る		Kossuth-dalok
27.	Ó, Erzsébet Bújj, bújj zöld ág Csön, csön gyűrű Csíp, csíp csóka	練習：ソーラーソーミの モティーフ <u>2拍子の準備</u>	知っている歌からモティーフを探 す いろいろな位置で●を並べる(移 調) 知っている歌から、アクセントあ りーアクセントなしを探し、(階 名で)提示する <u>手拍子(4分音符と4分休符)を しながら歌を歌う</u>	
28.	Hová megy te kis nyulacska? Csíp, csíp csóka Zsipp, zsipp, kenderzsupp Bújj, bújj zöld ág	2拍子を知る 小節線と、拍子の数字(2 拍子の2)を知る	知っている曲でアクセントありー アクセントなしの音を知る 記号と小節線を書く 観察：2拍子でどんなリズム 変化があるでしょう？	Kodály: Nyulacska
29.	Én kis kertek keríték Esik az eső Kék selyem kendő Kis kacsá fürdik	2拍子の練習 2部のリズム練習、読む ソーラーソーミのモテ ィーフ練習	小節線を書きなさい (15、17、19、53頁の課題)	
30.	A pünkösdi rózsá Ha én cica volnék Lopok, lopok szőlőt Luca, Luca	練習：ソソーソーソー ミのモティーフ ラーソーミを使った旋律 即興	歌の中からモティーフを探す (55頁) 2部のリズム練習 リズムカルな詩と旋律の即興をす る	Kedvenc zenéinkből
31.	Bel, bel, bel Ó, ha cinke volnék Tente baba párnára	今まで習った歌とリズム モティーフの練習	Tente babaー旋律モティーフを補 う Bel, bel, belー旋律モティーフを補 う 歌の一部分のリズムを考え出し、 2拍子で配置して書く	
32.	Már megjöttünk ez helyre Tente baba, tente	祝祭日の授業：anyak napja 歌を教える、朗読する、 話をする		
33.	Járok egyedül Gyertek lányok ligetre	練習：ラーソーミ ラーソーミをいろいろ 展開して知らない旋律 を歌う	短いモティーフ(笛、ピアノな ど)によって階名を補う(57頁) 歌を知る、楽譜、旋律の読み方、 音符に関して	

(“TANMENETJAVASLAT Lantos Rezső-Lukin Lászlóné Ének-zene 1. c. tankönyvéhez”, pp.4-9を訳出した。)

表7は、教科書会社のホームページからダウンロードした一般小学校1年生音楽教科書(表6の教科書)の授業案である。著者は小学校の教師である。就学前教育で習った歌や学習内容を用いた活動には、を付し、次の学習内容への準備には、を付した。

この授業案では、就学前教育で習った歌や内容を用いて行う活動が非常に多く見られる。このことは、1年生の音楽の授業が就学前教育の音楽活動の上に形成されていることを示す。また、新しい学習内容を教える前に、必ず準備の活動を設定している。新しいリズム、音符、記号などは、前回の授業あるいは前々回の授業からさまざまな形で暗示される。新しい学習内容は、数時間かけて繰り返し復習され、定着が図られる。さらに、1年生の終わりには、2年生で学習する新しい階名、旋律などが提示される。就学前教育→小学校1年生の間に、また小学校1年生の1年間の授業内で、さらに1年生→2年生の間でも、確立された系統性・計画性を見ることができる。

Ⅳ 就学前音楽教育と小学校1年生の音楽教育との連携の特徴

就学前教育と小学校1年生で目標とされている音楽的能力とその内容をまとめたものが表8である。

表8 目標とする音楽的能力の系統性

音楽的能力	3歳児	4歳児	5歳児	小学校1年生
音楽的語彙	旋律弁別	歌の記憶。	歌の記憶。旋律弁別(ハミングや楽器で示された曲名を当てる)。	旋律弁別(ハミングや楽器で示された旋律の一部から曲名を当てる)。 同一の旋律を探す。
	読譜・記譜			ラーソーミの学習：階名唱、ハンドサイン、符頭のみで読譜・記譜練習、歌詞に合わせて楽譜上に階名や符頭を書き入れる。
	旋律即興		旋律の応答唱。旋律モチーフを使って名前やあいさつを即興。	旋律の応答唱。旋律モチーフを使って旋律即興。
リズム的能力	均一なテンポ感	歌に合わせて基本拍で歩行。	歌に合わせて基本拍で歩行。	正確に基本拍を打つ。基本拍(4分音符)を符尾のみで読譜・記譜。
	リズム感	歌に合わせてリズムモチーフを手拍子する。	歌に合わせてリズムモチーフを手拍子する。アクセントを動きで強調する。	リズムシラブル唱。リズム打ちと歌を一緒に合わせる。合図で旋律唱とリズム打ちを交替する。
	読譜・記譜			リズムモチーフ(4分音符と8分音符)を符尾と符桁のみで記譜練習。リズムモチーフの書き取り。リズム譜を見て手拍子する。休符、2拍子、小節線、終止線、繰り返し記号、5線譜のしくみを学習する。
	リズム弁別			リズムから曲名を当てる。
	リズム即興		リズムの応答奏。	リズムの応答奏。
聴覚力	識別	高いー低いーの知覚(オクターブの隔たりを空間で示す)。	高いー低いーの知覚(オクターブと5度の隔たりを空間で示す)。	高いー低いーの知覚(歌ったり、聴いたり、楽譜を見たりにして高低がわかる)。
		小さいー大きいーの識別(会話、歌、雑音から弁別)。	小さいー大きいーの識別(会話、歌、拍手から弁別)。	
		速いー遅いーの識別(歌のテンポの変化に合わせて動作する)。	速いー遅いーの識別(会話や歌で速いー遅いがわかる)。	速いー遅いーの識別(小さいー大きいーと組合わせて弁別できる)。
		音色の識別(雑音、声、打楽器など)。	音色の識別(雑音と声の弁別、自然の音と雑音の識別など)。	音色の識別(雑音と楽音と声の弁別、方向や距離の弁別)。
	内的聴覚		内的聴覚(モチーフを小さく、大きく歌う)。	内的聴覚(旋律隠し)。

目ざされる主要な音楽的能力は、3歳児から5歳児にかけて徐々に高度になり、小学校1年生でさらに高度で広範囲に及ぶものとなる。就学前教育では、体験をととして感覚的に音楽的能力を習得する。小学校1年生では、それらを基礎として楽譜学習が始まる。

例えば、就学前教育で歌をたくさん歌うことによって、自然に音と音との隔たりの感覚(音程感)が蓄積される。就学前教育で歌われる歌はペンタトニック音階であり、その中でも多用されるのは、ラーソーミの音を用いた旋律である。したがって、1年生の最初の階名唱、ハンドサイン、読譜・記譜は、ソーミの音程から開始される。子どもは、就学前教育で数多く行われた旋律記憶や内的聴覚の育成によって内的に蓄積された音程感をもとに、視覚的に捉えた音を実際に正しく再生できるようになるのである。一般的に、読譜力とは楽譜を読む力であると思われがちであるが、実際には楽譜を読んで音を認識し、その上で

正しい音高で再生できなければならない。ハンガリーでは1年生のうちに、5線譜のしくみや記号・音符を認識できるだけでなく、真の読譜力を身に付けることができると言えよう。

同様にリズム的能力に関しても、就学前教育で数多くの歌を歌う際に必ず行われた「基本拍で歩く」ことによって培われた均一な鼓動は、安定したテンポ感を育成することにつながっている。また、就学前教育でしばしば行われた「歌のリズムに合わせて手拍子をする」ことは、多くのリズムモチーフを内的に蓄積させることになる。就学前教育で歌われる歌は、ほとんどが4分音符と8分音符の組み合わせ（「ター・ティティ」の組み合わせ）でできている。したがって、1年生のリズム学習も「ター・ティティ」から開始される。子どもは、就学前教育で内的に蓄積されたリズムモチーフをリズムシラブル「ター・ティティ」で歌うことによって、リズム譜にスムーズになじむことができ、リズムの読譜・記譜が容易となるのである。

以上のように、ハンガリーの音楽教育は、就学前教育から小学校1年生にかけて、密接な関連性を有していることが明らかとなった。保幼小連携音楽カリキュラムとして示唆を得られる点は、①目標とする音楽的能力が就学前教育と小学校で同一であること、②就学前教育の音楽活動の経験から獲得された音楽的内容・音楽的能力が小学校の音楽学習の基盤となっていること、③就学前教育の音楽活動は遊びの要素を含み、幼児は楽しみながらも実質的には音楽的なトレーニングを受けていること、④音楽活動に必須である、音楽的語彙（音程感、階名）、リズム的能力（基本拍、アクセントや言葉のリズムによる拍節感）、聴覚力（さまざまなものの識別、内的聴覚）の獲得が幼児から低学年にかけて徹底して行われること、⑤小学校の音楽学習内容が1年生から明確に設定されており、系統性・計画性があること、などである。

わが国の小学校音楽科教育では、楽譜上の音を認識することさえまなならず、ましてや聴覚に頼らずに、視覚的に捉えた音を音高正しく再生できる児童は数少ないと言わざるを得ない。ハンガリーの音楽教育に学ぶことの1つは、就学前教育から子どもに与えられる音楽的情報量の多さとその必要性である。また、就学前教育と小学校間で音楽教育に関する目標と方法が同一であるがゆえに、連携のしくみが強固で系統性があるのである。わが国の就学前教育と小学校の領域－教科の連携を考える上で、ハンガリーの音楽教育は非常に有益なカリキュラムであると言えよう。

【註・引用文献】

- 1) 本論文では就学前教育と小学校との連携のしくみに焦点を当てたので、小学校2年生以降は扱わない。詳細に分析するには膨大な量になるからである。就学後以降の音楽教育の系統性は別の機会に検討する。
- 2) ハンガリーの教育省が正式に出している就学前教育のガイドラインはない。したがって、公式に示されたガイドラインとしてTereskeのガイドラインを扱う。
- 3) Óvoda és Általános Iskola Integrációs Bázisintézmény Tereske,
<http://web.axelero.hu/terisk/pr021.htm>, p.1
- 4) Ibid., pp.7-8
- 5) Ibid., p.17

【参考文献】

- ・Forrai Katalin, *ÉNEK AZ ÓVODÁBAN*, Musica Budapest, 2004
- ・フォライ・カタリン／知念直美編、畑玲子訳『わらべうた・音楽の理論と実践－就学前の音楽教育』明治図書、1991年
- ・清川美也子「ハンガリーの音楽教育（10）コダーイの音楽教育の実録（3才～6才）1983年ブタペストに於て」『教育研究』第46巻、青山学院大学教育学会、2002年、pp.111-124
- ・清川美也子「ハンガリーの音楽教育（11）コダーイの音楽教育の実録（6才～9才）－小学校1・2・3年（1983年ブタペストに於て）」『教育研究』第48巻、青山学院大学教育学会、2004年、pp.109-131
- ・清川美也子「ハンガリーの音楽教育（12）コダーイの音楽教育の実録（9才～12才）（小学校4・5・6年）」『教育研究』第49巻、青山学院大学教育学会、2005年、pp.63-88
- ・清川美也子「ハンガリーの音楽教育（13）コダーイの音楽教育の実録（12才～14才）（小学校7・8年）」

『教育研究』第50巻、青山学院大学教育学会、2006年、pp.93-115

- Lantos Rezsóné, Lukin Lászlóné, *Ének-zene az általános iskola 1. osztálya számára*, 2001, Nemzeti Tankönyvkiadó, Budapest
- 笹嶋真夫「幼児教育に於ける言葉と音楽そしてコダーイシステムについて」『千葉敬愛短期大学紀要』第28巻、2006年、pp.37-48
- 志澤彰「ハンガリーの「音楽小学校」の音楽教育－日本・オーストリア・ドイツの音楽教育と比較して」『国士舘大学文学部人文学会紀要』第34巻、2001年、pp.59-73

web資料（本文記載順）

- Óvoda és Általános Iskola Integrációs Bázisintézmény Tereske
<http://web.axelero.hu/terisk/pr021.htm>
- A NEMZETI TANKÖNYVKIADÓ MŰHELYÉNEK KERETTANTERVE AZ ALAPFOKÚ NEVELÉS-OKTÁTÁS SZÁMÁRA, 2003
http://www.okm.gov.hu/letolt/kozokt/kerettanterv/mk68/MK68_2_02-2.mell-p1489-2140-nemzeti-tk.pdf
- Ördög Mária, TANMENETJAVASLAT Lantos Rezsóné–Lukin Lászlóné Ének-zene 1. c. tankönyvéhez
<http://www.nettankonyv.hu/web/guest/home>

* 本研究は、科学研究費補助金（基盤（B））「保育所・幼稚園・小学校連携音楽カリキュラムの開発に関する基礎的研究」（課題番号：17330195、三村真弓、吉富功修、北野幸子）の一部である。